

Y2-33

実地指導者とともに作る「知・人・看護」をつなぐ研修

姫路赤十字病院 看護部

上田真由美、芝山 富子、若松 良子、

今川真理子

新人看護職員卒後臨床研修制度開始に伴い、教育担当者・実地指導者育成のための研修を行い、新人看護職員（以下、新人）を育てる教育環境の整備に努めてきた。屋根瓦式教育体制として職員全体で教育を実践しているが、その中でも、看護実践を見せて語ることで部署の看護を伝承し、新人教育を推進していくためには、実地指導者の役割は大きいといえる。

そこで、実地指導者が4月の早い段階で新人に関わることで、新人への関心が高まり、部署において自覚と責任を持ち教育活が行えるようになるのではないかと考え、新人オリエンテーションに実地指導者が参加する研修を企画した。新人に対して、早期に日常業務に役立つとともに、業務として必要となる電子カルテの操作などを理解する場として、「基礎看護技術 採血・点滴注射・与薬」の研修を行っており、今年は技術の指導者として実地指導者の参加を企画した。実地指導者は、研修準備をしながら自分の看護についてのリフレクションを行うことで、知識のみならず対象と向き合うための配慮や看護として自分が大事にしていることなどを織り交ぜながら指導したり、新人の技術習得レベルを実際に見て知ることで部署の教育計画の参考にしたりしていた。また、新人は実地指導者を通じて、これから一緒に働く先輩を身近に感じたり、部署の看護に触れる機会となったりしたことで、職場適応の一助になっていた。

このように、実地指導者とともに研修を作り上げることで「知と人と看護」を集合研修からOJTへ、先輩から後輩へとつなぐことができたので、ここに報告する。

Y2-34

看護師に対するキャリアラダーを導入したパス教育

前橋赤十字病院 クリニカルパス委員会

笹原 啓子、安東 立正、吉田 英里、

吉野 礼子、矢嶋美恵子、前田 陽子、

池谷 俊郎

【はじめに】当院では、看護師の現任教育に対して2006年度よりキャリアラダーシステムを導入している。クリニカルパス（以下パス）もラダーシステムに含まれており、その研修内容と実績について報告する。

【目標と教育内容】1～3のレベル別に以下のように設定した。レベル1．目標：パスを使用した看護実践が行える。教育内容：パスの基礎知識 レベル2．目標：パスを作成し、活用できる。教育内容：パス作成の方法論 レベル3．目標：パス活動を積極的に実践できる。教育内容：バリエーション分析の方法論

【結果】2010年度までに教育を受けた看護師は、レベル1が293名、レベル2が173名、レベル3が78名であった。レベル1と2の知識テストの正答率は約8割であった。電子カルテパスとなり、アウトカム評価を看護師が入力することとなったが、正と負の評価を正しく評価できない看護師も多いことが知識テストの結果から明らかとなった。また研修終了後、実際にパス作成や改訂に携わった看護師の数も少なく、研修後の活動をいかに促すかについて課題が残った。【今後の課題】教育を実施することでパス活動を実践できる看護師の育成につながっているが、今後は看護師のみならず、コメディカルも参加した、より質の高いパス教育を行っていきたい。